

ワタシかまいた  
今日のこぼ

# 山陽堂だより 27


2011年11月霜月

## お知らせ

山陽堂は  
11月12日(土)

お休みを  
いただきます。

12日売りの  
アール・パンサ  
スイート・バイラ  
などの女性誌は  
前日の11日に  
終了されます。



「おやじに身じと  
かかせようたんと  
はでなないと思つて  
一所懸命・まじめに  
はたらいたよ。」  
かつてVANの社員  
だった70代男性は、  
VAN倒産後も環境  
だった石津謙介代  
(おやじ)を慕い、こんな  
思いで働いていたという。  
「おやじはすごい人  
だ」と思いました。



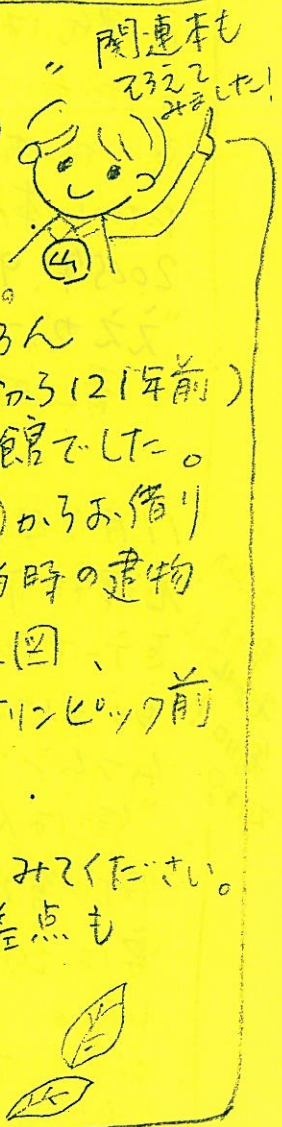
次の企画展は...

## 昔の青山のそいてみよう

明治23年、明治天皇は、<sup>後に</sup>日露戦争で活躍  
した当時の陸軍大臣大山巖の私邸を訪ねています。  
大山邸は、今の神宮前5丁目にありました。もちろん  
明治神宮も表参道もない頃のはなしです。(今から121年前)  
大山邸はドイツの古城を模した煉瓦造の洋館でした。  
その写真と中学時代の同級生(大山巖代の子孫)からお借り  
して展示します。その他、山陽堂昭和6年当時の建物  
の設計図、昭和10年頃の青山表参道町並図、  
表参道沿いの戦前の家(水彩画の写真)、オリンピック前  
の山陽堂の写真などなど。

昔の青山表参道を気軽にちょこっとのそいてみてほしい。  
ギャラリーの大きな窓越しにみえる、表参道交差点も  
なかなかのものですよ。

みなさまのお越しをお待ちしています。



# 石津謙介生誕100年展

2011.10.8~10.31 (11~7 全期延長)

「僕が考えるライフスタイルとは時代とともに移り変わるものだと思う。  
そこには『伝統』といえども変化していることを見逃してはならない。」  
- 石津謙介 -

戦後10年と経たない頃には、石津謙介氏は日本に“ライフスタイル”を  
持ち込んだ。その後、VANの打ち出すすべてが当時の若者を  
熱狂させ、ファッションの枠を飛び越え、カルチャーとして日本に  
根付いていった。青山は、その拠点。

引き寄せられるようにファッション、デザイン、アート関係者などが  
集まり、街のイメージが形づくられた。

石津氏は当時「僕は風俗をこしらえたんです」と言っていた  
そうだが、その根底には、人を楽しませたい、驚かせたいという  
思いがあったのだろう。

ただし本人は、あえてそれを口にしなかった。  
2005年、93歳でこの世を去るまで、実に  
“ええからこしい”だったのだ。

— 青山時間 生誕100年 SPECIAL EDITION 人 —  
“ええからこしい” 石津謙介という人

VAN  
of  
HALV  
TAKE  
IVY  
ORANGE  
HOUSE

11月7日(月)最終日のトークイベントでは、石津事務所代表  
石津祥介氏(謙介氏の長男)に「石津謙介と青山、そしてこれから」  
をテーマに語っていただきました。大学生から70代(小学2年生  
もいました)の参加者でキャーリーは階段までいっぱい。熱気  
ムフムンでクラーをつけたくらいでした。

“街は人がつくる” “青山を **青山文化**” という言葉で表現されるのは  
街に育っていく” “きものづくりもありましたし、ゆかたに人魚にもあり”  
要はその「人」次第。お話をきいて、「柔らかい」と感じま  
した。この柔軟性がなにかを変えてく **力** になり予感  
がしました。山陽堂も青山という街と共に地道に変身しながら  
これから これからの時代にありつきたいと思いました。

当時の  
男性は  
モテたい  
爺加!!  
スネオ